4. 審査員講評（日諸　博美先生、高橋　淳一先生）

〇小学校低学年の部

最優秀賞	・子どもたちにとっては，近くの野山で触れ合うことのできる，たくさんの昆虫たちやカエルたちは大切な仲間たちです。カブトムシやクワガタ，トンボなどが安心して暮らすことのできる【ゆたかな自然】をこれからもみんなで守っていきましょうと訴えかけてきました。【ちいさな命】と朱色で描いたことや，たくさんの昆虫たちが群がっている樹木を画面の左端に描いていることで画面が引きしまり作者の工夫を感じました。 ・カブトムシやトンボ、カエルなど小さな生き物をよく観察し描かれています。特にトンボの翅の模様などを細かく正確に描かれています。「ちいさな命」の文字を赤く塗ることで見る人に強い印象を与え、小さな生き物一つ一つに大事な命があるということを強く訴えているポスターです。
優秀賞	・川の中の様子がよく分かるように工夫して描かれていることに感心しました。透明感も良く表現されて，水中のゴミをすくい上げてきれいにしている様子が伝わってきます。魚たちが幸せに暮らしていくことができるように，川を汚さないようにしましょうと訴えかけてきます。画面全体の明るい色づかいが，ほのぼのとした環境問題のない明るい自然を感じさせてくれます。 ・魚やザリガニたちが「きれいな川にしてくれてありがとう」とゴミを拾っている人に言っているように画面から感じます。人物の服装や水の中の生き物の形をしっかり観察しています。背景の森の木々や水の表現など丁寧な筆づかいや水彩絵の具の濃さを工夫して描かれています。
優秀賞	・画面中央，まるで森の【主】のように卵を抱いている大きな鳥に，【もりのいのち】を象徴するかのような存在感を感じ，目を引き付けられました。画面右の樹木を，下から見上げるように描いたことで，画面全体に広い空間を感じさせてくれます。森の中ではたくさんの生き物たち【いのち】が育まれています。『みんなで森の環境を守りなさい』と【主】の声が聞こえてきそうです。 ・色とりどりの鳥たちが木に留まっています。上にいる小さい鳥は楽しそうに飛んでいる中、黄色い親鳥が、じっと正面の方を見ています。親鳥がこれから生まれてくるひなを守ろうとする意識を強く感じます。文字の周りを赤く縁取りすることで見やすい工夫がされています。
全体	・出品点数が，９点と少なかったのですが，少なかった分，どの作品にも力のこもった，丁寧で真剣みのある表現活動を感じとることができたように思います。 ・低学年の子どもらしい，身近な自然の中で生きている小さな生き物たちを守っていきたいと言う思いを，環境保全に関連づけて表現していました。 ・低学年の作品は、身近な生き物たちをモチーフにしながら、自然は大切にしないといけないと訴えかけるポスターになっています。丁寧な色塗りを行っている人が多く好感が持てる作品ばかりです。文字が見やすくなるように縁取りをするなど工夫もされています。

○小学校高学年の部

最優秀賞	・町の環境保全＆美化を訴えるために，画面を左右に2分割して描いたことに作者らしい工夫を感じました。中央の人物の表情も画面の【うれしい・かなしい】内容に合わせて描写されています。【かなしい　まちにしない‼】ためにはどうすればよいのでしょう。画面に描かれている内容一つ一つが，私たちにもできることを色々と教えてくれ，そして，考えさせてくれます。中央の人物が，左右に2分割された画面をまとまりのあるものにしてくれました。 ・画面を左右に分割し、自分という存在がどちらの未来にするのか決める境界線にいる様子を見事に表現しています。左側では鮮やかな色彩からエネルギーを感じ、左側は暗めな色彩から不安や寂しさを感じます。見る人に強い印象を与えるポスターになっています。

優秀賞	・対比する海中の様子を描いた画面を，上下に2分割して描き，作者の訴えかけたいことが分かり易く伝わってきます。下の画面には，海中へのゴミ投棄が原因となる，様々な生き物たちが苦しんでいる様子が描かれています。【生きやすい海を作る】ためには，ゴミを投棄しないことだけではありません。まだまだできることがたくさんあることを考えさせてくれました。涙を流して喜んでいるイルカに目を引き付けられました。 ・上下で画面を分けることで見る人にわかりやすい構図になっています。海の透明感を出すために水の加減に気を付けて塗られています。画面の下のようなゴミにあふれた海よりもゴミのない、イルカやチンアナゴなどの生き物たちが楽しそうに泳げる海にしたいという思いが伝わるポスターです。
優秀賞	・赤色と黄色を使った，独特の版画表現が画面全体に迫力を感じさせてくれます。画面の迫力の分だけ，訴えかけてくる力も強く感じられ，作者らしい工夫を感じました。絶滅させたくない思いで，これまで頑張ってきた【トキ】を，【未来に残す】ために，私たちできることは何かと考えさせてくれます。トキを【ニッポニアニッポン】と学名で記したことで，作者の思いは，新潟に止まらず，全国にそして世界へと広がっていくように感じました。 ・彫り進み版画で表現され黄色、オレンジ、赤と黒を使うことで力強く鮮やかな作品になっています。学名の「ニッポニア・ニッポン」と文字が書かれ、赤の背景に文字の黒がよく映え、見る人を引き込みます。新潟の空を舞うトキを大切にしたいという思いが強く伝わるポスターです。

全体	・環境についての学びの機会も増えているのでしょうか，環境問題に関する知識も豊富となり，豊富になった分，対象も広く大きく広がって新潟県内の環境保全に止まらず，目は全国へ世界へと広がっているように感じる作品が多くなってきたように思います。 ・作品中に挿入されたレタリングの文言の内容にも，高学年の子どもらしい，一工夫が感じられました。 ・特別の教科道徳や総合的な学習の時間などで学習したことを自分事としてポスターで表現していると感じるものが多くありました。表現としても描写力が低学年の時より上がり、動植物をよく観察して特徴を捉えているポスターが多くありました。高学年になるにつれて表現の幅が広がっています。

〇中学校の部

最優秀賞	・テーマは【水】。そのために，画面全体を，４分割でもなく，５分割でもない，【６分割】にしたことは，【水】という漢字の形に関係があるように思ってしまうのも，作者の意図かもしれません。６つの画面に，それぞれ【水】をモチーフにした場面が描かれ，それらの場面内容を繋げていくと，【世界が廻っている】のは，【水が巡っている】からに違いないと気付かせてくれます。この【水が巡る】環境を，これからもみんなで守っていかなければならないと訴えかけてきます。 ・画面を6分割している枠を見ると意図したのか、「水」という字にも見えてきます。新潟県の特徴である雪やダム、そして日本海と水にまつわるものが循環を意識して描かれています。「廻る」とレタリングされた隣に、風力発電の風車を配置することで、エネルギーについても意識させるなど細部にわたって工夫されたポスターです。

優秀賞	・大切にしていかなければならない4つの【資源】。画面を4分割して，それぞれの【資源】を【宝物】らしくそれぞれの宝にふさわしい入れ物・容器に入れて表現していることに作者らしい工夫を感じました。大切にしなければ，との思いが伝わってきます。その【宝物】に相応しく描かれた背景も，それぞれ工夫されて描かれていることにも感心しました。【宝物】である【資源】を，私たちはこれからどのように扱っていけばよいのかと考えさせてくれました。 ・資源は宝物であり、その中の「水滴」「葉っぱ」「魚」「エネルギー」が様々な形の宝箱（入れ物）に入っています。透明な絵の具を塗り重ねることで深みを出すよう工夫しています。資源は、人間が豊かな生活を送るために大切にしないといけないものだと再認識させるポスターです。
優秀賞	・水と木々の茂る【自然】の様子がとても【美しく】描写されています。透明感の感じる水辺，そこに泳ぐ魚たちなど中学生らしいリアルで細やかな描写に目を奪われました。画面全体の落ち着きのある色づかいと，生き物たちの色づかいが美しく調和され，作者の工夫を感じさせてくれます。【美しい自然】をみんなで【守りたい】と考えさせてくれました。水の中の様子や森の奥の方も美しい自然の様子が醸し出されるよう，工夫して描いていることに感心しました。 ・守るべき「多様な命」が画面全体で表現されています。画面の上部にいるカワセミや水中にいるヨシノボリでしょうか魚がいます。この中には個体数が減っている生き物もいます。生態を守ることで「このような風景が見られるよ」と強く訴えているポスターです。

全体	・レタリングの文言内容や，レタリング文字の配置・構成，彩色，字体など表現の仕方に中学生らしい工夫を感じ，訴えてくる力を感じることができました。 ・中学生らしい繊細な表現力が光り，見る者を引き付ける力を感じます。環境保全の必要性がひしひしと伝わってくる作品が多く見られました。 ・中学生になると、小学生よりさらに表現の幅ができています。授業で配色やレタリングの学習をすることで丁寧なポスター作りになっています。技術だけでなく、どのように表現すると見る人に訴えることができるのか、しっかり考えられている作品が多く、見応えがありました。